

日本学術振興会  
炭素材料第117委員会  
第307回委員会議事録

1. 日 時 平成25年9月13日(金) 9:30~17:00
2. 場 所 東京工業大学 大岡山キャンパス  
情報理工学研究科・大会議室(西8号館(East)1001号室)
3. 出席者39名 (順不同・敬称略)

委員長代理・主査： 川口雅之(大阪電通大)

主 査： 児玉昌也(産総研)

主査代理： 豊田昌宏(大分大)

幹 事： 稲垣道夫(北大)、山口秋男(炭素協会)、塩谷正俊(東工大)、  
上野貴博(日本工大)、京谷隆(東北大)、小林知洋(理研)、  
安田榮一(東工大)、吉田明(都市大)

委 員： 塩山洋(産総研/代理：清原健司)、小田廣和(関西大)、平原聡(三菱  
化学)、高波浩(タンケンシールセーコウ/代理：川村良一)、近藤純子  
(東洋炭素/代理：森下隆弘)、沖野不二雄(信州大)、柴田大受(原子  
力機構)、鎢木裕(都市大)、園部直弘(クレハ・バッテリー・マテリア  
ルズ・ジャパン)、羽鳥浩章(産総研)、向井紳(北大)、岩下哲雄(産  
総研)、飯島孝(新日鐵住金)、中壽賀章(積水化学工業)、山下順也(旭  
化成)、河合隆伸(日本カーボン/代理：柴田博史)

委 員 外： 押田京一(長野高専)、菱山幸宥(東京都市大)、木村脩七(東工大)、  
白石壮志(群馬大)、斎藤幸恵(東大)、西澤節(神戸製鋼所)

同伴者他： 吉澤徳子(産総研)、干川康人(東北大)、和田拓也(積水化学工業)、  
兒嶋勇(タンケンシールセーコウ)、鶴見裕貴(タンケンシールセーコ  
ウ)、曾根田靖(産総研)

#### 4. 本委員会議事経過

川口委員長代理司会の下に本委員会を開催した。

##### 4.1 前回議事録の承認

以下を訂正し、第306回議事録(案)を承認した。

同伴者 大崎弘貴（原子力機構） → 大崎弘貴（東洋炭素）

A 分科会議事録：著者名 千川康人 → 千川康人

B 分科会議事録：14 行目 炭素網目 → 炭素網面

#### 4.2 第 1 1 7 委員会関係

##### (1) 委員長報告等

##### (a) 東アジアカーボンシンポジウムについて

11 月 14 日に産総研において特別講演会として開催。講演者決定済。

○Prof. Masatoshi SHIOYA, Tokyo Institute of Technology

*“Poly(vinyl alcohol)-based carbon and precursor material”*

○Prof. Jong Sung YU, Korea University

*“Pt-free heteroatom-doped carbon as effective oxygen reduction catalyst”*

○Prof. Feiyu KANG, Dean and Professor, Graduate School at Shenzhen, Tsinghua University

*“Carbon Materials with High Thermal Conductivity”*

○Prof. Chong Rae PARK, Seoul University

*“Recent Advances in Preparation and Applications of Porous Carbons: MOF-Derived Porous Carbons”*

○Prof. Toshiaki ENOKI, Tokyo Institute of Technology

*“Nanographene; Geometry and Electronic Structure”*

##### (b) 量子ビーム融合化利用研究

JAEA 組織改編の可能性があり、今秋締切りの次年度科研費への応募は見送り。

##### (c) 第 4 回日独合同セミナー

Carbon2014（済州島）終了後、7/6（日）～8（火）の日程で開催。Carbon2013（リオデジャネイロ）において尾崎幹事がドイツ側に提案済み。12 月までに寺井委員長名にて企業に協力依頼を行う。

##### (d) 次回以降の予定

第 308 回 11/14(木), 15(金) 産総研 (14(木)は東アジアカーボンシンポジウム)

##### (2) 分科会報告

- (117-307-B-1) 放電プラズマ焼結法を用いた高導電性炭素 - アルミナ複合材料の作製  
○千川康人<sup>1</sup>, 野村啓太<sup>1</sup>, 石井孝文<sup>1</sup>, 京谷隆<sup>1</sup>, 岡井誠<sup>2</sup>,  
赤津隆<sup>3</sup>, 篠田豊<sup>3</sup>  
(東北大<sup>1</sup>, 日立製作所<sup>2</sup>, 東工大<sup>3</sup>)
- (117-307-B-2) BBL ポリマーを原料とした黒鉛超薄膜の表面構造  
○曾根田靖, 吉澤徳子 児玉昌也  
(産総研)
- (117-307-C-1) ピッチ系炭素繊維へのインターカレーションに関する研究  
上田悟司, 大内康裕, 衣本太郎, 津村朋樹, ○豊田昌宏  
(大分大学)
- (117-307-C-2) 硫黄ドーブ活性炭電極を用いた電気二重層キャパシタ  
清雲博史, ○白石壮志  
(群馬大学)
- (117-307-A-1) 熱分解炭素の蒸着生成時における構造の試料表面からの深さ依存  
吉田 明<sup>1</sup>, 鐙木 裕<sup>1</sup>, ○菱山幸宥<sup>2</sup>, R. H. Bragg<sup>3</sup>  
(都市大工<sup>1</sup>, 都市大名譽<sup>2</sup>, University of California Barkley Prof.  
Emeritus<sup>3</sup>)
- (117-307-A-2) グラファイトナノファイバーを得るためのアニマルセルローズナノファイバーの処理条件  
○鐙木 裕<sup>1</sup>, 伊藤潤<sup>1</sup>, 新藤恵美<sup>1</sup>, 吉田明<sup>1</sup>, 岩下哲雄<sup>2</sup>, 吉澤徳子<sup>2</sup>, 児玉昌也<sup>2</sup>)  
(都市大工<sup>1</sup>, 産総研<sup>2</sup>)

#### 4.3 報告事項

##### (1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口主査（運営委員長）より以下の報告があった。

##### (a) 入退会関係

2013年8月27日時点の会員数：1007名（正会員；753名、学生会員；254名）。

賛助会員54社（口数：59口）講習会・セミナー

(b) 講習会・セミナー

・9月スキルアップセミナー

9月6日(金)に連合会館(旧:総評会館)にて「電気化学キャパシタの最前線を探る:電気二重層からハイブリッドまで、炭素材料の果たす役割」を実施した。参加者31名。

・10月セミナー準備状況

10月18日(金)に日本教育会館にて「1日で学ぶ炭素材料の解析方法 ―物性と機能評価を中心として―」を実施予定(学会HPに掲載中)

(c) 第40回年会の準備状況

2013年度第40回年会を12月3日(火)~5日(木)の期間で京都教育文化センターにて実施する(学会HPに掲載)。講演申込件数:180件(内、口頭104件、ポスター76件)。3会場で実施する。全体の特別講演1件、ナノカーボン招待講演(海外)3件・(国内)3件、ナノカーボン Keynote 4件を予定。10月1日にプログラムをHPに掲載予定。「炭素」11月号にプログラム(決定版)に掲載予定。

(d) 夏季セミナー

第51回夏季セミナーを8月26日(月)~27日(火)の期間でメイプルイン幕張(千葉市)にて実施した。約50名の参加があった。

本セミナーについては、来年度から炭素材料学会が主催する予定(来年度予算に計上)。ただし、「次世代を担う会(仮称)」が主体的に実施・運営できるようにする。

(e) 連載講座の書籍化(名称:「カーボン材料実験技術(製造・合成編)」)

炭素材料学会出版、国際文献社印刷という形で本年11月発刊予定。今年度の「炭素」に掲載した原稿が入るので予定より50ページ増加する見込み(本文342ページ)。

(f) 新カーボン用語辞典(仮称)

「現在発行されている用語辞典を2014年度中(できれば2014年度の年会前)にWebにアップをする」、「Web化に必要な費用を2014年度予算に計上する」、「改訂版については2年ぐらい時間をかけて編纂する」ことが確認された。カーボン用語辞典編集委員を中心に、現在のカーボン用語辞典の著作権関係について、炭素材料学会を通して弁護士相談を実施し、現行のカーボン用語辞典の内容をそのままweb化することは問題ないとの結論を得た。

(g) AACG 会議報告

Carbon2013 リオデジャネイロで開催されたAACG会議において、Carbon2017はオーストラリア・メルボルンでの開催が決定された(日本は2020年開催が有力)。

また、稲垣先生、遠藤先生、Ryu先生がAACGの名誉会員として承認された。

炭素誌関係:沖野委員(編集委員長)より以下の報告があった。

(h) 259号は発刊済み。260号は特集号で順調に編集中。

- (i) 投稿数が減少しており、来年以降投稿促進を図る。
- (j) 博士論文の電子版公開が 9 月より開始される。図表の転載許諾に関して、235 号以前は炭素材料学会と JST に、235 号からは炭素材料学会に連絡する必要がある。
- (k) 電子版のカラー化は図 1 枚あたり 800 円程度の自己負担となる見込み。

## (2) Carbon 誌関係

京谷幹事より、グラフェン(graphene)という用語の定義に関する統一ガイドラインが論文のひとつとして掲載されているので参照してほしいとの連絡があった。Web でも閲覧可能。

## (3) 国際会議関係

Carbon2014 (6/29-7/4, 済州島)

(以上)